

令和4年3月27日（日）
第52回車座集会

多摩川の未来を考える
～150万人市民が親しむ川づくりに向けて～

川崎市建設緑政局



開催趣旨

「川崎の母なる川」である多摩川では、これまで市民・企業・行政等が、豊かな自然環境や広いオープンスペースを活かし、様々な活動や取組を行ってきました。



しかし、この約3年間は、イベント等が制限され、これまでのような活動や取組が思うようにできませんでした。



ここで改めて多摩川における活動や取組の必要性を再認識するとともに、今後さらに多摩川の魅力向上や賑わい創出につなげるにはどうすればよいのかを考え、すべての市民150万人が、いつでも、どこかで、多摩川に親しんでいる、そんな未来を創っていきたいと思い、車座集会を開催するものです。



意見交換の進め方

車座集会のテーマである150万人市民が多摩川に親しんでいる未来を想像し、その実現に向け、それぞれの立場や考えを共有しながら、意見を交換します。

○参加者

- ・市民団体（水辺の楽校、NPO）
- ・継続的に取り組む団体（指定管理者、カフスイ 川崎水族館、（公財）河川財団、（学）東京国際大学、多摩川キャンドル灯と人実行委員会）
- ・河川敷の新たな利活用に取り組む団体（小田急電鉄（株）、（一社）多摩区ソーシャルデザインセンター、サントリーホールディングス（株）、武蔵小杉エリアプラットフォーム）
- ・国土交通省京浜河川事務所、ミズベリング事務局

○意見交換の流れ

次のステップで段階的に意見交換を行い、議論を深めます。

STEP 1 「多摩川の現在（いま）を知る」

- ・参加者の多摩川での活動や考えを知る。
- ・協働・連携の可能性について考える。



STEP 2 「多摩川の未来を想像（創造）する」

- ・ミズベリングの取組や考えを知る。
- ・様々な人たちを巻き込みながら、活動や取組を広げていくにはどうすればよいのか。



今後に向けて